

モフ草履活動を支える

モフ草履アンバサダー

モフ草履アンバサダーとは

織編館主催のモフ草履講座で、市民の方にモフ草履の作り方を教えるお手伝いをしていただいている方々です。

泉大津フロントランナー

2人とも何十年経っても、手は覚えていたんですね。

松本 きっかけは娘に誘われた草履体験講座で、織編館長の上西さんと出会ったことです。子どもの頃に、祖母に教えてもらっていたので編み方は覚えていました。
浅田 定年退職後、ボランティア活動をしていました。娘の紹介でアンバサダーになりました。私も編み方を覚えていたので、すぐに教えることができました。

アンバサダーになったきっかけは

戦争が終わり、どんどん物が増えていくなかで、白や黒、国防色だったモノクロの町がみるみるカラフルな街に変わる変化と同時に、2人は草履を作らなくなっていきました。

松本 小学五年生のとき、祖母のまねをして、わらを使った草履を作っていました。
浅田 小学生の頃に戦争が始まり、真っ暗な北の夜空に燃えている町が見えていました。当時、みんな物が無く自給自足の生活で私は小学三年生のときから、わらで草履を作ってお金を稼いでいました。

草履を編むようになったのはいつごろですか

市長は、モフ草履を市民一人一人が一足使用することを目指し活動している。例えば、市立織編館では月に二回、市民に向けたモフ草履講座を開催している。講師には、モフ草履を作ることができる市民の方を「モフ草履一人一足を目標して」

この課題を解決するために考えられたのが、足指の力を高めるための「あしゆびプロジェクト」である。あしゆびプロジェクトの取り組みの一つであるモフ草履は、毛布のヘリを使って編み上げる、泉大津独自のものである。地域産業である毛布とあしゆびを繋げ「モフ草履」は生まれた。

■南出市長インタビュー

転倒する高齢者と草履

現在、和式トイレの減少で「しゃがむ」という動作をしなくなった。そして、鼻緒のある草履や下駄から、スニーカーや革靴になったことで、足指を鍛えるシーンが減っている。このため、浮指と呼ばれる足指が地面につかず力が入らない状態の人々が増加し、こどもの姿勢が悪いことや高齢者が転倒する原因の一つとなっている。

市長：「健康寿命を延ばすことは日本人の共通課題だと思います。」

今後の展開

モフ草履を履くだけで、自然と足指の筋力が使われる。市で開催されている「あしゆびフェスタ」のイベントで足指のセルフケアを知ってもらい、転びにくい身体づくり、そして健康寿命を延ばす取り組みを実施している。地域産業を学びながらモフ草履を作って履くことは異世代間のコミュニケーションのきっかけとなり、家庭で足指セルフケアのワークショップも生まれる。健康づくりをしながら地域や家族の絆づくりもできる一石何鳥にもなる取り組みだ。

この取り組みは泉大津市から日本中に広まるだろう。モフ草履は、あしゆびプロジェクトを全国に広めるための『オセロの一枚目』と市長は語った。

モフ草履の魅力とはなにですか

浅田 一人一人違う草履ができるところが面白いですね。私の草履は配色にもこだわっていて色選びから結構な時間をかけています。
松本 私の作る草履を娘や知人が欲しがってくれて作っていてやりがいを感じます。自分でも作った草履を普段から履いていて、お風呂上りに履くと気持ちいいですよ。

モフ草履は毛布のヘリを使って編み上げることで、わら草履とは違って色の種類が豊富です。手作りのものは作り手も受け取り手も、人のぬくもりを感じられる最高の贈り物になりますね。



ポイント!

モフ草履とヘリ

“ヘリ”とは毛布の周囲をパイピングしている部分で、毛布の最終工程である縫製(縁飾り)工程で縫いつけられます。

ヘリ縁の素材は、幅3~10cm程の細長い生地で、通常ロール状に巻いてあります。



桃大生の声

【実際に私たちがモフ草履づくりを体験してみた】

モフ草履を初めて作ってみて、今まで編み物を一切したことがなかったので編みはじめは難しく感じましたが、編んでいくうちにすぐに慣れていきどんどん草履の形へ変化していくことが嬉しく、編み物の楽しさを知ることができていい経験になりました。

モフ草履をつくろう

市のホームページでは、モフ草履の作り方を動画で紹介しています。



あしゆびプロジェクトの詳細は市ホームページで紹介しています

私たちが、桃山学院大学経営学部の朴ゼミ、フロントランナーチームです。3年生の私たちは5人で力を合わせ泉大津市長さん、モフ草履アンバサダーの松本さん、浅田さんにインタビューさせていただきました。実際に直接インタビューさせていただいたことにより、非常に勉強になりました。市長さんの熱意を感じ、足指を大切にしようと思えました。今回はゼミ活動に協力していただき、ありがとうございました。



(左より) 西川 深河 南出市長 吉田 西川 藤原



モフ草履アンバサダー
松本さん(左)・浅田さん(右)



あしゆびプロジェクトを展開する南出市長にモフ草履の誕生から今後について聞く

桃大生が伝える!
「泉大津フロントランナー」特集記事

モフ草履はオセロの一枚目

桃山学院大学では、「経営実践」を学ぶためにさまざまな活動をし、その一環として、泉大津市のあしゆびプロジェクトを支える、モフ草履アンバサダーを紹介する「泉大津フロントランナー」を企画しました。市はその内容を広報いずみおおつへ掲載することとしました。これは、学生たちが調査・取材を行い作成した特集記事です。